看取りに必要な臨床推論力・実践力を育む教育

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　教授　　糸島　陽子
研究分野：終末期看護学　看護倫理　看護教育
研究室ＨＰ：https://www.nurse.usp.ac.jp/seijin/index.html

高齢化の影響を受け、看取りの場が医療施設だけではなく在宅や施設へと移行しています。そのため、そこで働く看護職・福祉職の看取りに関する実践力を高める必要があると考え、研究や教育に取り組んでいます。
また、ひとり一人が自分の人生を生ききるために自身と向き合う機会の提供と意思決定支援のあり方を探求しています。

■看取りケアに必要な臨床推論力を育む仮想空間コミュニケーション教材の開発

看取りケアに必要な臨床推論力を高めるため、仮想空間でのコミュニケーション教材を作成しています。看取り経験の少ないケア実践者が臨場感のある体験をとおして、看取りケアに必要な臨床推論力や実践力を高めることを目指しています。

■『あなたならどうする？エンドオブライフにある人々と家族とのコミュニケーション』

エンドオブライフにある人々と家族とのコミュニケーションについて学べるDVD教材を作成しました。いつでも、どこでも、何度でも体験できます。
下記アドレスから体験してみてください。

研究活動｜滋賀県立大学 人間看護学部 成人看護領域
https://www.nurse.usp.ac.jp/seijin/activity.html



■療養者の意思決定支援

がん・非がん、難病をもつ人々の治療選択、療養場所の選択、当事者の望む最期をどのように支援していくのかについて、共同研究や、院生・学部生の研究テーマとして一緒に取り組んでいます。
また、「もしバナゲーム」をとおして自身の最期を考える機会を提供しています。

■看護倫理

看護協会の研修や施設での学習会などで、倫理原則や看護倫理綱領をもとに、ジレンマの分析や、看護職の責務、看護実践における倫理的行動について一緒に考えています。

■男性家族介護者の介護負担軽減と被介護者への虐待・介護殺人の防止支援モデルの開発

超高齢社会に突入し、多疾患併存（マルチモビディティ）を抱え介護を必要とする高齢者が増加しています。長期的なケアが必要な高齢者を介護する男性家族介護者の心身の健康保持と被介護者に対する虐待・介護殺人の防止のための支援体制を共同研究しています。